

連携先世界遺産：音羽山清水寺 清水寺の△△の○○(良い点)を磨け!、もしくは□□(困っている点)を教え!

境内の魅力を再発見しそれを伸ばす、あるいは問題点を発見しその問題解決を図る、いずれにしても独自の視点で新しい課題を見つけ解決する

■受講生

松浦 巴里 (立命館大学・経営学部・4年生)
出水 香凜 (同志社女子大学・表象文化学部・2年生)
上杉 真央 (立命館大学・情報理工学部・3年生)
大澤 祐介 (立命館大学・理工学部・3年生)

■担当教員

宗本 晋作 (立命館大学・理工学部・教授) 青柳 憲昌 (立命館大学・理工学部・准教授)
遠藤 直久 (立命館大学・理工学部・講師) TA 酒井 亮介 (立命館大学・文学部・3年生)

活動目的・概要

清水寺でもまだ気づいていない、時代を超え後世まで維持していくべき良い点は何か?逆にまだ気づいていない困っている点は何か?フィールドワークを行って、建築学の視点から対象の課題を発見、提案作成、発表、検証を繰り返し、創造性豊かに解決する提案を目指しました。授業は清水寺にて対面方式で行い、第2回授業では森清頭先生に境内を案内していただき、清水寺に対しての理解を深めました。4人の受講生を大学、専門分野が偏らないよう2つのグループに分け、個人でなくグループでの作業を基本としています。毎回の授業準備では、グループ内で意見交換しながら「他の人に伝える材料」を用意しました。授業では、担当教員、時には森清頭先生を交えて、意見を交換しながら再検討しました。これらの過程を繰り返し、最終的な提案へまとめていきます。授業の目的は、解のない課題と向き合い解決する能力養うこと、他大学の学生や専門分野が異なる学生同士が積極的な交流を図ることです。結果、グループでの活動や活発な議論を経験した歴代の受講生が清水寺のファンとして定着しています。



◆主な活動

2025.5.25(日) ガイダンス
2025.6.1(日) 概要説明、清水寺境内見学
2025.6.1(日) 自己PR、グループ分け
2025.6.15(日) (講義)清水寺の建築学的視点と歴史
2025.7.6(日) 現地調査計画の発表、フィールドワーク
2025.8.17(日) 草案批評1

2025.9.8(月) 草案批評2
2025.9.28(日) 草案批評3
2025.10.26(日) 草案批評4
2025.11.2(日) 中間発表、講評
2025.11.9(日) 草案批評5
2025.11.23(日) 成果発表会準備、発表練習
2025.12.7(日) 成果発表会

活動の成果

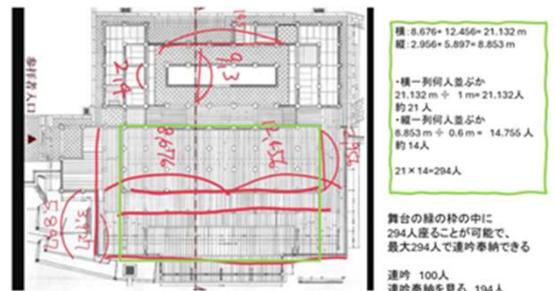
清水寺連吟フェスティバル-奉納の場としての桧舞台

私たちのグループは、清水寺の課題として、多くの参拝者が桧舞台を「景色を眺める場所」として認識している点に注目しました。本来、桧舞台は芸能を観音様に奉納する場であり、その意味を来訪者に体感してもらう方法を考えました。

清水寺にはゆかりのある謡曲が数多く存在しますが、舞を奉納するのは難しいため、連吟という形であれば多くの人が参加できると思いました。奉納を通じて観音信仰に触れ、神仏との精神的なつながりを築けるのではないかと考えました。

数ある謡曲の中で『田村』を選んだ理由は、主人公が清水寺建立と深い縁を持つ坂上田村麻呂であるからです。境内には『田村』に登場する田村堂や音羽の滝があり、さらに田村麻呂は阿弋流為と母礼の助命を願い出た人物でもあります。境内には「北天の雄 阿弋流為 母禮之碑」と刻まれた石碑もあります。これらの点から『田村』の連吟奉納には大きな意味を持つと考えました。

私たちは「清水寺連吟フェスティバル」を通じて、観光で訪れた人々が奉納を体験して桧舞台の本来の意味を知り、観音様との深いつながりを感じてほしいと願っています。そしてこの取り組みをきっかけに清水寺のファンが増え、日本の伝統芸能である能楽が広く親しまれると嬉しいです。



拝観券を通した祈りのきっかけづくり

現在の拝観券は「入場証」という役割が強く、参拝の本来の目的である祈りの行為に繋がりにくく、体験の価値が残りにくいと感じました。清水寺は京都を代表する一大観光地として広く紹介されており、とりわけ本堂の舞台は非常に有名です。しかし、観光を目的とするあまり、参拝そのものがおろそかになってしまう例も見受けられます。

そこで清水寺を訪れるすべての人が手に取る拝観券に、「祈りのかたちをあらわすあかし」としての役割をもたせることで、観光目的で訪れた人々が「参拝の場」として清水寺を意識するきっかけになるのではないかと考えました。

清水寺の本尊である千手観音様は人々を救済するため、四十二手にそれぞれ意味の異なる法具を持っています。そこで拝観券にこの法具の意匠を拝観券というかたちで取り入れ、千手観音の四十二手の持物をあしらったスタンプを押すことのできる拝観券を提案します。スタンプを押すという行為によって、それぞれの法具がもつ意味を理解し、自身の祈願に合ったモチーフを選んで拝観券に表すことができます。これにより、参拝という行為を再認識し「かたち」として残り、自分だけのオリジナルの拝観券が完成します。拝観券そのものに価値が生まれ、学びと信仰へとつながる体験になると考えました。



KIYOMIZU TEMPLE

音羽山 清水寺

活動を振り返って

- ・課題を見つけるところから始まり試行錯誤を重ねました。清水寺を舞台に学科を超えたグループワークから得られた学びは大変貴重な経験になりました。ありがとうございました。
- ・最初はどんな風に進んでいくのか検討がつきませんでした。しかし、清水寺で講義を受けていく中でグループ内での趣味や興味のある事がとても個性的で形になっていく過程がとても楽しかったです。
- ・考える中で一つのことを様々な視点から見るとできることが増えたり、逆におかしなところが見えてきたりと一筋縄では行かないことが難しくもあり面白くもありました。
- ・私は寺社仏閣や博物館巡り、スタンプ集めなどが好きで、それを提案にどう活かせるかを考えました。しかし、自分の好きを題材にしたことで視野が狭くなりがちになり、清水寺に本当に必要なものとして昇華させることは難しいことでした。既存の提案の流用になったり、清水寺で行う必要性が無くなってしまったりといったこともありましたが、教授のフィードバックを受けながら整理し、必要なものを見極める業は大きな学びとなりました。

担当教員からのコメント

宗本晋作

課題の解決法と問題設定の組合せを学生自身で発見しなければならぬため、最初の部分で手こずる学生は多い。しかしながら、苦戦しながらも見出した活路は、魅力ある新しい構想、それを人に伝えようとする高い創作意欲に繋がり、何より長い目で見たときに必ず有用となる学生自身の表現や纏める能力になると信じ、毎回、徹底した姿勢で指導している。今回も苦勞していたように思うが、その分、学びは大きいはずである。授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論により、期待以上の成果品ができた粘り強さ、高い向上心に賞賛とエールを送りたい。学生たちの新鮮なアイデアを共にブラッシュアップしていく過程で、私自身も考えさせられ、共に学んだと痛感している。この背景には、森清頭先生をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことを特筆させて頂いた上で、今一度、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げます。

青柳憲昌

この課題は、清水寺について学生たちが感じた良さや現代的課題を発見し、それをもとに他の社寺などにも適用できるモデルを提案してもらおうというものです。テーマが広く、難しい課題ですが、それに対して今年度も受講生に意欲的に取り組んでもらい、大きな成果が生まれたと思います。今年度の受講生たちは、拝観券による参拝方式という寺院のありかたや、人であふれる清水寺の舞台の現状に解決すべき課題を見出し、ツーリズムに偏りがちな現代寺院の課題を解きつつ、宗教施設としての本来の姿に立ち戻ろうとする斬新なアイデアを提案してくれました。

遠藤直久

様々な専門と環境であるメンバーが、非常に困難な課題に対し個性豊かな直観、俯瞰した客観的な視点をもって有意義に取り組んでいました。用意や提示がない中で自身の目と体験をもって問題を見出し、とても素晴らしい提案に驚きました。新鮮で思いもよらない発見を目の当たりにし私にとっても貴重な体験でした。皆さんこれから社会で活躍することになると思います。ただの情報だけに囚われることなく自身の目で感じ取り、物事を捉えることがこれからの道にイノベーションを生む重要な姿勢だと思います。また個の力を高め信じることも大事ですが、縁で繋がり協働することの力の大きさとその喜びをこれからの皆さんの人生において大事にしてほしい。

活動資料

(左) 森清顕先生の講話を聞いている様子。初めて知る清水寺の興味深い説話や歴史がたくさんありました。
(右) 森清顕先生に清水寺境内を案内してもらった時の様子。森先生のお話を聞きながら境内を巡り、時に質問をしながら清水寺について理解を深めました。



清水寺での授業の様子。毎回、先生方と相談会(建築の言葉でエスキス)を行いました。
先生から厳しい意見が出ることもありましたが、独自の提案にするために、議論を深めました。



グループでテーマを決め各々で調査を行いました。(左)と(右)各グループのエスキスの様子。
各グループとも独自性のあるテーマに取り組み仲間と共に頑張りました。

